

演奏家を目指したい



増山^{ありみ}有美さん
(下神主)

11月25日、栃木県総合文化センターで開催された、第2回栃木県ピアノコンクール（部門F級（高校生の部）で、栃木県教育委員会教育長賞（第一位）を受賞した、増山有美さんにお話しを伺いました。ピアノを始めたきっかけは、「父の友だちがピアノの先生だったので、五歳の時に始めました。やってみるととても面白くて夢中になっていました。」と話す増山さん。

現在、県立石橋高等学校に通う高校二年生で、週1回のレッスンと自宅での二時間の練習を毎日こなしています。

今回行われたコンクールでは、『ベートーヴェン ピアノソナタNo.13変ホ長調Op.27-1全楽章』という課題曲が与えられ、見事第一位の成績を獲りました。フリーで演目を弾くよりは、課題曲を与えられて弾く演目が得意とのこと。しかし、今回コンクール

今日の輝ける星

で与えられた演目は難しい曲で、演奏時間が14分。コンクールでは13分で演奏を切られてしまうので、曲目を覚えることと、時間を短縮して弾くことが、非常に大変だったそうです。それでも審査員として招かれたロシアと国内のピアニストから、表彰式後にお褒めの言葉を頂き、自信がついたそうです。

家族についても、お母さんはいつも自宅で練習をしていると、アドバイスをしてくれるとのこと。そして、今回のコンクール前に行われた演奏会では、「父と祖父母が初めて演奏会に聴きにきてくれて、とても嬉しかったんです。初めて自分を表現できた演奏で、演奏後に鳥肌が立ちました。今回受賞したコンクールでも同じように表現し演奏でき、力になりました。」と家族に支えられピアノを演奏できる環境を嬉しそうに話してくれました。

将来の夢についてたずねると、「音楽大学に進んでクラシック音楽を聴いていたい。演奏家を目指したいです。」と力強い言葉が返ってきました。



かみのかわ 四季の野鳥 カモ（鴨）

もうすぐ立春。陽だまりでは、もう、オオイヌノフグリ可憐な花が咲いています。コタツから抜け出して、カモたちを見に行ってみませんか？

カルガモなど、一部のカモは日本で子育てをしますが、ほとんどのカモは大陸で繁殖し冬鳥として日本に渡ってきます。また、カモ類は狩猟鳥になっているものが多く、やっと海を渡ってきても、今度は銃口に狙われる運命にあります。でも、カモは利口で、狩猟が解禁になると、さっさと禁猟区の池に逃げ込んできます。

町周辺ではインターパークの池で、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、ヨシガモなど、10種類ほどのカモ類が見られます。初春の日差しに水も温み、メスのまわりで数羽のオスが求愛する様子も見られるかもしれません。

マガモ



黄色いくちばしと鮮やかな緑色が特徴で、ハンターには「青首」と呼ばれます。鳴声は「グエーグエー」。アヒルはマガモを家禽化したものです。

ヨシガモ



ナポレオンハットと呼ばれる緑と茶色に光る頭部と風切羽が長く垂れた蓑毛が美しいカモです。

オナガガモ



名前のおり尾羽がピンと長く伸び、見つけやすいカモです。あまり人を恐れず、公園などで餌をやると足もとまで寄ってきます。

ヒドリガモ



ぬいぐるみのような茶褐色の頭部にクリーム色の線が目立ち、「ピュー」という鳴き声の特徴です。